

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-116045

(43) 公開日 平成7年(1995)5月9日

(51) Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 7 G 1/02		F 6908-3K		
B 6 2 D 1/04		9142-3D		
H 0 1 H 13/08		7161-5G		

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平5-303203

(22) 出願日 平成5年(1993)10月26日

(71) 出願人 592048198

鈴木 告

愛知県名古屋市中川区明徳町1-73

(72) 発明者 鈴木 義春

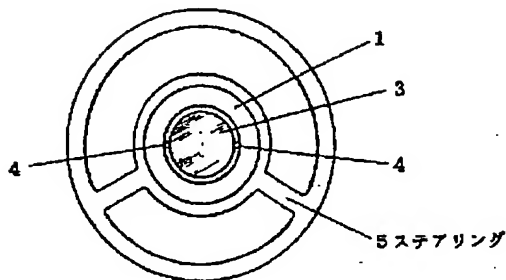
名古屋市中川区明徳町1-73

(54) 【発明の名称】 自動車用ホーンボタン

(57) 【要約】

【目 的】 この発明は、ステアリングに取り付けられている自動車用ホーンボタンに鏡を設けて、ドライバーが運転席にいながら、自分の顔を容易に見ることができる装置に関するものである。特に、女性ドライバーの下車時に、化粧直し用として用いると便利である。

【構 成】 ホーンボタン (1) の軸受け (2)、(2) に、鏡 (3) を軸 (4)、(4) で装置し、このホーンボタン (1) をステアリングに取付ける。鏡 (3) が必要になったら、鏡 (3) の鏡面を表にする。運転中は裏返しにすれば目障りにならない。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 (イ) ホーンボタン (1) に、軸受け (2)、 (2) を設ける。

(ロ) 鏡 (3) に、軸 (4)、 (4) を設ける。

(ハ) ホーンボタン (1) の軸受け (2)、 (2) に、鏡 (3) を、軸 (4)、 (4) で装置する。

(ニ) ステアリング (5) に、ホーンボタン (1) を取り付け。

以上のごとく構成された、自動車用ホーンボタン。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、ステアリングに取付けられている自動車用ホーンボタンに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来では、運転席で自分の顔を見る鏡はなかった。だから、とくに女性ドライバーが自動車からの下車時において、運転席で化粧直しをするには、ハンドバック等から携帯鏡をとりだし用をたしていた。せまい運転席では、携帯鏡の置場所がなく片手で鏡を持ち、片手で化粧直しをしなければならなかった。また、ルームミラーでは、たとえ角度を変えても取付け位置が上方で見ずらかった。これは、きわめてわずらわしいことであ

った。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 だから、種々便利さを要求する声が大であったのに、解決されなかった。本発明は、その強い要望をまとめて最も簡単な方法で解決したものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】 いま、構成を説明すると、

(イ) ホーンボタン (1) に、軸受け (2)、 (2) を設ける。

(ロ) 鏡 (3) に、軸 (4)、 (4) を設ける。

(ハ) ホーンボタン (1) の軸受け (2)、 (2) に、

2

鏡 (3) を、軸 (4)、 (4) で装置する。

(ニ) ホーンボタン (1) をステアリングに取付ける。

以上のように装置する。

【0005】

【作用】 次に本発明の作用を述べると、鏡 (3) の取付け角度は、軸 (4)、 (4) で角度可変であるから、最適の角度に調節することができ、しかも不必要時には、鏡 (3) を裏返して、目障りにならないようにすることもできる。

10 【0006】

【実施例】 以下、実施例を説明する。鏡 (3) は、平面鏡、凸面鏡、凹面鏡又は、これらの併用鏡を用いてもよい。図1のものでは、ホーンボタン (1) に、鏡 (3) を軸 (4)、 (4) でつけているが、図3では、ホーンボタン (1) に鏡 (3) を接着している。他に、ホーンボタン (1) に鏡 (3) を鑲着、はめ込み又は埋め込み等にもすることもできる。さらに図1のものでは、鏡 (3) の裏側に、飾りとなる小物をはめこむか、接着などしてもよいし、飾りとなる絵柄、字等を描くか印刷等をしてよい。また、図3のように鏡 (3) の鏡面が常時露出しているものでは防眩を兼ねた、スライドまたは、はねあげができるカバーを設けることもできる。

【0007】

【発明の効果】 したがって、運転席に座ったままで、わずらわしさもなく効果的に用いることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一部点線で示した正面図である。

【図2】 本発明の使用正面図である。

【図3】 本発明の他の実施例の正面図である。

30 【符号の説明】

1は、ホーンボタン

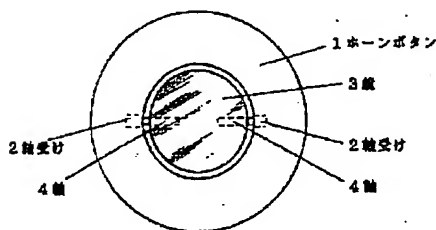
2は、軸受け

3は、鏡

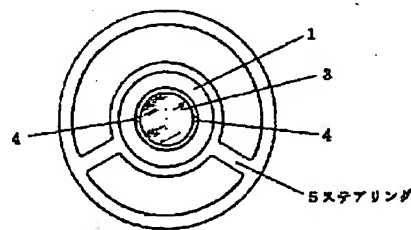
4は、軸

5は、ステアリング

【図1】



【図2】



【図3】

